学校全体で組織的に取り組む授業改善の事例①　佐伯市立渡町台小学校

取組概要

渡町台小学校では、**校内研究の全体構想**において、学校の教育目標・重点目標と中心となる教科等との関連、研究の方向性、日々の授業の内容における徹底すべき事柄等を明確にするとともに、教育課程研究協議会改善の重点との関連を明示し、**日々の取組が関連付いていることを意識できる**ようにしている。

工夫・ポイント

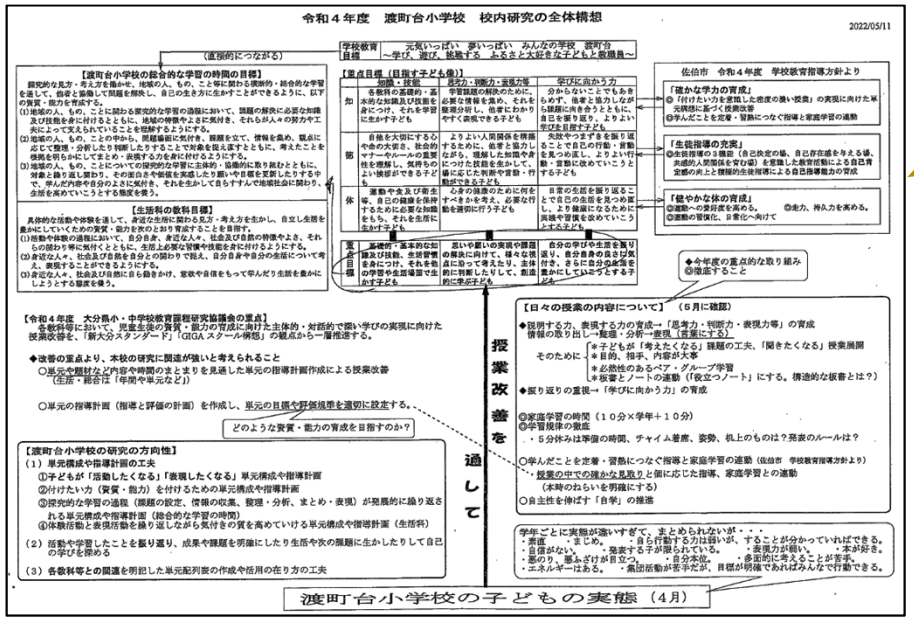
◆校内研究の全体構想に「学校として育成を目指す資質・能力」（重点目標）を明示
◆**県・市・日々の取組が関連付いている**ことの意識付け
◆日常の授業において**、徹底して取り組むことの確認**

特徴的な活動

◆校内研修の時間が限られていることから、**研修内容を「焦点化」したり、「予習課題」を出したり**する。
◆実践事例交流会を定期的に行う。
◆指導主事の活用

関係者の声

◆参加型の研修であるため、話しやすい雰囲気がある。
◆子どもの実態等、多様な視点で考えることができるため、視野が広がる。
◆実際の実践の様子が分かりやすく、今後の実践イメージがわく。自分事として考えることができている。



研究の全体構想

研修内容の予告

予習課題の確認

５月１１日（水）の校内研修は、「総合的な学習の時間」の単元の立ち上げについてです。
※１年部、２年部、支援部も一緒に行います。

（１）実践事例から学ぶ。（事例提供：佐々木先生）

（２）単元を立ち上げるために、ウェビングマップで構想を広げる。

資料をつけているので、１１日（水）までに読んでおきましょう！

資料①　小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）
９９～１０３ページ

資料②　仙台市立広瀬小学校の研究紀要から

※吉田指導主事（佐伯市教委）と後藤指導主事（佐伯教育事務所）を招聘しています。（２）の作業の際、助言をお願いしています。

「実践ハンドブック」は読みましたか？
「ドスルコスル」などの動画は見ましたか？

疋田実践に見る総合的な学習の時間の単元導入の工夫　佐伯市立渡町台小学校

単元の目標

学校給食の残菜や家庭、佐伯市全体で出されている食料の実態を調査したり、食の町佐伯市をSDGｓの視点をふまえてＰＲしたりする活動を通して、**まだ食べられるのに捨てられている「フードロス」の現状と課題や生産者の思いや願いを理解する**とともに、**その解決に向けて自分たちにできることを考え**、**自分と食とのつながりを意識しながら生活できるようにする。**

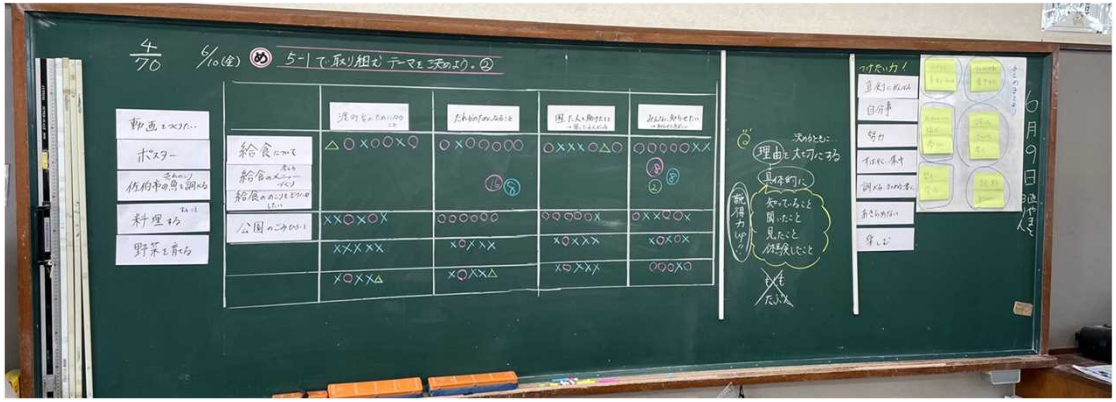
※単元の目標は、具体的な学習活動＋育成を目指す資質・能力（**知識及び技能**、**思考力、判断力、表現力等**、**学びに向かう力・人間性等**）を構造的に配列します。

工夫・ポイント

◆単元の導入において、これまでの総合的な学習の時間の経験を確認し、そこで身に付けた資質・能力を児童とともに確認している。

◆５年生で「どんな力を付けていきたいか」を児童とともに具体化し、それが実現できるようにするための学習活動を、児童とともに決定している。

◆自分たちにとって身近である「給食のフードロス解消」に取り組むことで、「自分ごと」としての課題を明確化・自覚化するとともに、フードロス解消の対象や活動の範囲を学校ー家庭ー地域と広げていきながら、自分たちにできることを考え行動し、今後の自分自身の生活に生かすような展開を構想している。



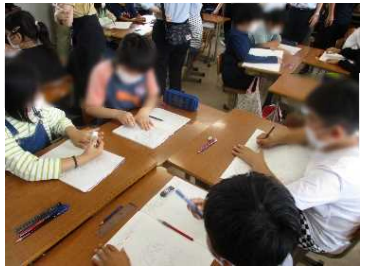
活動決定時の板書（多面的に考察し、活動を決定している）

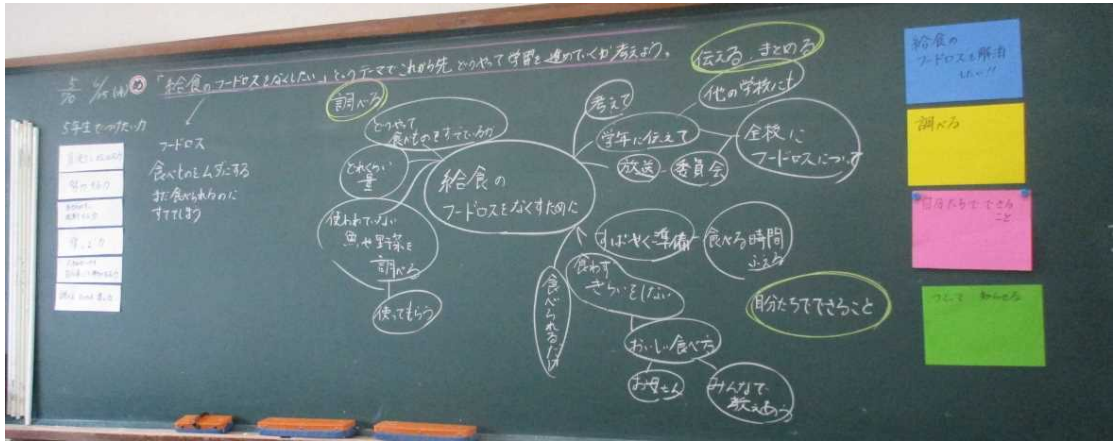
本時の主な学習活動

①「給食のフードロスを解消する」学習を進めるうえで必要だと思うことをグループで話し合う。（事前に一人一人ウェビングマップをつくっている）

②グループで交流して追加・修正した個人の考えを全体で共有し、これからの学習の流れを考える。（活動計画を立てる）

③本時を振り返り、次の時間にしたいことを記述する。





本時の板書：「給食のフードロスをなくすため」の学習活動や学習対象の具体をウェビングマップで共有し、今後の学習計画を立てる